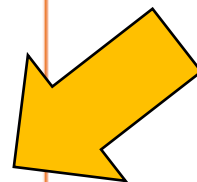


「いわきの“こうすればできる”支援ガイド」リーフレット

福島県教育庁 いわき教育事務所
学校教育課（指導担当）
▶特別支援教育 のページは [こちら](#)



<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70710a/shidou01.html>

ホームページからダウンロードをしてご活用ください。

いわきの子どもたちが
“こうすればできる”と『自信』をもって生きるために
本人・保護者、学校を支える

教育的ニーズの視点による「支援ガイド」



「通常の学級での学びガイド」

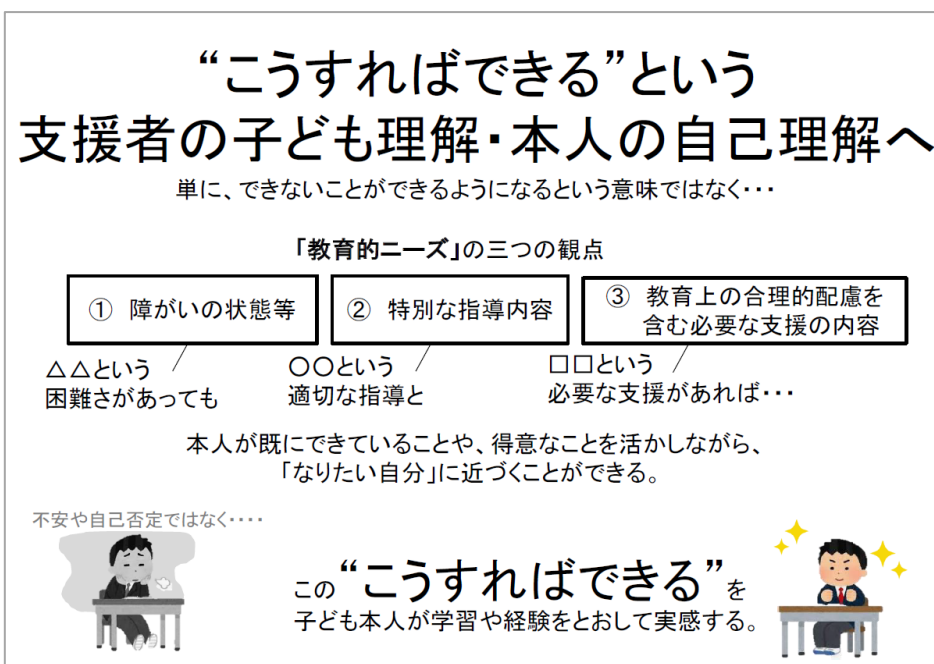


1 本人・保護者の相談窓口マップ

2 教育的ニーズの視点による「支援ガイド」

3 「通常の学級での学びガイド」

4 参考資料:支援ツール集



この「教育的ニーズ」の三つの観点を理解することで、以下の問いについての考えが深まります。

Q 気になる子どもをどのように捉えれば(実態把握)よいか？

→「できなさ」「困難さ」だけでなく、本人が「どうなりたいか？(思いや夢)」また「すでにできていること」、「得意なこと」、「行動の理由や背景」を把握します。そして本人に必要な支援内容・環境と、本人ががんばる学習・練習内容(適切な指導内容)を具体的に整理します。この「こうすればできる」という捉え方は、「就学時」や「進学先への引継ぎ時」も必要です。

➡ 2 教育的ニーズの視点による「支援ガイド」
4 参考資料: 支援ツール集

Q 校内や進学先で活用できる「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」の評価とは？

→「こうすればできる」という視点で支援を具体的に考えると、「○○(指導・支援内容)することで、○○できた。」という評価が可能になります。この本人に有効で必要な「支援内容」を計画に記載し引き継ぐことで、引継先でも活用ができます。

➡ 2 教育的ニーズの視点による「支援ガイド」
4 参考資料: 支援ツール集

Q 「自立活動」で何をすればよいか？

→「自立活動」で何をやるかだけでなく、上図の「教育的ニーズ」の三つ観点のひとつと捉えることが大事です。子どもとの「対話」を確保し、中心になる課題を具体化します。子ども自身が「苦手なことがあっても、自分はこうすればできる」と実感できる学習内容や経験の機会を工夫します。

➡ 4 参考資料: 支援ツール集

Q 支援が必要な子どもも含め「通常の学級」での授業改善のヒントは？

→授業での子どもたちの「つまづき」を想定し、「どうしたらできるか？」を考えること。A君への個別支援は、「他の子どもや、全体で活かせるかもしれない」という発想が大事です。授業のねらいや見通し等が分かるように、「見える化」することもヒントになります。また、普段から子どもたちへ「どうしたらできたか、おしえて？」というポジティブな問いかけも大切です。

➡ 「通常の学級での学びガイド」
4 参考資料: 支援ツール集